

資料

精神科病棟看護師の長期入院統合失調症患者の 退院可能性の判断に関する文献検討

Judgment on the possibility of discharge long-term hospitalized patient with schizophrenia by nurses of
psychiatric wards in Japan : A literature review

沼田 由美*¹, 難波 峰子*¹, 木村美智子*¹
今磯 純子*¹, 名越 恵美*²

要約:

【研究目的】

文献検討から精神科病棟看護師の65歳未満の長期入院統合失調症患者の退院可能性の判断について明らかにする。

【文献選定方法】

医学中央雑誌 Web 版 (Ver.5) を用い, 「精神科」, 「長期入院」, 「統合失調症」, 「判断」, 「退院支援」をキーワードとし, 2009 年から 2019 年の過去 10 年に発表されたもので, 精神科病棟看護師の 65 歳未満の長期入院統合失調症患者の退院可能性の判断について言及している文献を対象とする。

【分析方法】

文献の研究目的, 研究方法, 結果の概要, 発表年をまとめ, 退院可能性の判断について, 方法や内容に着目して記述を抽出し, 精神科病棟看護師の 65 歳未満の長期入院統合失調症患者の退院可能性の判断について検討する。

【結果および考察】

6 件の文献検討から, 精神科病棟看護師の 65 歳未満の長期入院統合失調症患者の退院可能性の判断について, 以下のことが明らかになった。

- 1) 退院可能性の判断には, 退院を目標にした視点での査定を日常生活援助から行う場合と, 退院を目標にした視点なく印象的な出来事や気にかかる生活状況から退院の課題をつかむ場合がある。
- 2) 退院可能性の判断のための査定内容は, 精神症状, セルフケア能力, 家族のサポート等である。
- 3) 退院支援の内容から, 退院可能性の判断のための査定内容を推測すると, 精神症状以外では, 査定内容と支援内容に混在がみられる。
- 4) 系統的な情報収集が十分行われていないため, 退院を目標にした視点の有無にかかわらず査定内容が具体的に不明であり, 退院支援として日常生活援助等の支援を行っていることを看護師が認識していないことが課題であると考え, 看護師が, 系統的な情報収集から患者の退院可能性を判断し, 日々の支援が退院に繋がることを意識するために, 査定内容を具体的に明らかにする必要がある。

Key Words : 精神科, 長期入院, 統合失調症, 判断, 退院支援

I. はじめに

わが国の精神科医療は, 2004 年に策定した「精神保健医療福祉の改革ビジョン」において「入院医療中心

から地域生活中心へ」という方針が掲げられた。また, 2013 年には, 改正精神保健福祉法に基づき, 新たに入院する患者は原則 1 年未満で退院する体制を確保すること, 精神科病院の義務として退院促進のための措置を講ずることが示されている。

しかし近年では, 精神疾患の総患者数は増加し, 2017 年の精神および行動の障害による入院患者数は 30.2 万人で, そのうち, 最も多いのは「統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害」の 15.4 万人である。また,

2020 年 12 月 1 日受付 / 2021 年 1 月 21 日受理

*¹ NUMATA Yumi

NANBA Mineko

KIMURA Michiko

IMAISO Junko

関西福祉大学 看護学部

*² NAGOSHI Megumi

岡山県立大学 保健福祉学部

精神科入院患者のうち約60%は入院期間が1年以上であり、平均在院日数は、「精神および行動の障害」が277.1日に対し、「統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害」は531.8日と報告されている（厚生労働省、2017）。1年以上入院している統合失調症患者の退院促進は、依然として喫緊の課題である。

先行研究によれば、入院が長期化した患者は、家事等の生活能力の低下によって社会生活をする自信を喪失し（藤野他、2007）、入院生活に安心感を持つため、退院をためらうという報告（高橋、2016）があり、入院が長期になるほど退院は困難になることが推察される。また、高齢者が転居した後の生活適応は、65歳以降の転居に比べ、65歳以前の転居のほうが、適応状況が高いという報告がある（古田他、2018）。入院している統合失調症患者でも、退院後の生活適応は、年齢が高齢になるほど困難なのではないかと推察される。患者の年齢と入院期間を考慮し、出来るだけ早期に退院を目指して支援することが必要である。

1年以上入院している患者の退院を目指した支援のために、病院スタッフには退院に向けた意欲喚起、看護師等には患者の地域移行の重要性に関する情報提供や精神障害者の地域生活の実際を体験する研修等の実施が求められている（厚生労働省、2014）。しかし、先行研究によれば、病棟看護師は、患者の生活レベルの低さから退院は困難と感じている（吉村、2013）ことや、訪問看護師は「退院に対して高すぎる目標設定が病棟看護師にある」と認識していることが報告されている（福原他、2013）。

病棟で退院を支援する看護職を育成し、患者の退院を促進するために、本研究では、文献検討から精神科病棟看護師の65歳未満の長期入院統合失調症患者の退院可能性の判断について明らかにすることを目的とする。

なお、本研究における「長期入院」は、厚生労働省の報告に準拠し、1年以上の継続した入院とする。

II. 研究方法

1) 文献選定方法

精神科病棟看護師の65歳未満の長期入院統合失調症患者の退院可能性の判断に関する文献を検索する。検索には、医学中央雑誌 Web 版 (Ver.5) を用い、「精神科」、「長期入院」、「統合失調症」、「判断」をキーワードとする。

文献の発行年は、2009年から2019年の過去10年に発表された文献を対象とする。前述の通り、2013年の

精神保健福祉法改正以降、さらに長期入院患者の退院促進の機運が高まったと考えられる。しかし、長期入院統合失調症患者の退院促進に関する文献は、多くが事例研究であり、対象となる文献数が少ないことが推察されるためである。

また、文献の種類は「原著論文」に限定する。なお、医学中央雑誌における原著論文には、短報や会議録等、簡略化された形式の論文であっても、原著の内容で、目的、対象、方法、結果、考察、結論で構成されているものが含まれている。そのため、検索結果の論文タイトルと要旨を概観し、1事例の振り返りである文献、あるいは結果に示されている患者の年齢が65歳以上のみの文献を除外する。絞り込んだ論文を精読し、結果に示されている患者の平均入院期間が1年未満の文献を除外し、精神科病棟看護師の65歳未満の長期入院統合失調症患者の退院可能性の判断について部分的であっても言及している文献を対象とする。

2) 分析方法

対象となった文献の研究目的、研究方法、結果の概要、発行年をまとめる。結果の概要は、退院可能性の判断について、方法や内容に着目して記述を抽出し、精神科病棟看護師の65歳未満の長期入院統合失調症患者退院可能性の判断について検討する。

III. 結果

1) 対象文献の選定

精神科病棟看護師の65歳未満の長期入院統合失調症患者の退院可能性の判断に関する文献を対象とし、医学中央雑誌 Web 版 (Ver.5) でキーワードを組み合わせて原著論文を検索した。結果、「統合失調症」and「判断」では271件、「長期入院」and「統合失調症」and「判断」では28件であり、計291件であった。そのうち、重複文献は25件であった。重複文献を除外した266件を概観すると、選定条件を満たす文献は1件であった。このほか、退院可能性に対する看護師の判断基準や退院時期を見定める看護師の臨床判断に関する文献はあったが、いずれも学会発表抄録であり、方法や結果の詳細が不明であったため、除外した。また、精神看護専門看護師を対象にした文献があったが、退院支援を行っている看護師への支援内容であり、精神看護専門看護師自身の判断は不明であったため、除外した。

文献数が少なく、さらに文献選定を行うため、キーワー

ドを再考した。キーワードの再考では、看護の目標を達成するための思考過程の筋道である看護過程のステップ（日本看護科学学会, 2019）を参考にした。看護過程は、アセスメント、問題の明確化、計画立案、実施、評価に分けられ、互に関連している。今回、「判断」をアセスメント、問題の明確化の段階と捉え、計画立案以降の段階に着目して文献を選定することで、判断について把握出来ると考えた。「精神科」、「長期入院」、「統合失調症」、「退院支援」をキーワードとし、検索した。結果、「精神科」and「統合失調症」and「退院支援」では285件、「長期入院」and「統合失調症」and「退院支援」では173件、「精神科」and「長期入院」and「統合失調症」and「退院支援」では145件であり、計603件であった。そのうち、重複文献は291件、1事例の振り返りである文献、あるいは結果に示されている患者の年齢が65歳以上のみの文献は174件であった。選定条件を満たす文献は5件であった。最終的に6件が検討対象となった。文献の概要を表1に示す（以下、表1のNo.で文献を示す。）。

2) 精神科病棟看護師の65歳未満の長期入院統合失調症患者の退院可能性の判断

退院可能性の判断には、退院を目標にした視点での査定を日常生活援助から行う場合と、退院を目標にした視点なく印象的な出来事や気にかかる生活状況から退院の課題をつかむ場合があり、いずれの場合も熟練看護師による判断であった（No.1,5）。

査定内容は、患者の精神症状、セルフケア能力、対人交流のスムーズさ、精神症状の自己コントロール力、知的レベル、退院への希望、退院への不安（No.2,4,5,6）や、家族による患者へのサポート、過去のエピソードによる家族の患者に対する否定的感情、症状を抱えた患者の退院後の生活への家族の不安、家族の疾患に関する知識、退院に関する家族の意見の齟齬であった（No.2,3）。このうち、患者の精神症状とセルフケア能力は、査定内容について述べられている文献すべてに共通した項目であった。

一方で、退院可能性の判断には、看護師の「患者に退院してもらいたいという思い」の影響（No.3）や、患者との関係形成に困難がある場合は、1人では課題をつかむことが出来ない状況があった（No.1）。

3) 精神科病棟看護師の65歳未満の長期入院統合失調症患者の退院に向けた支援

退院支援は、患者と家族に対して同時期に行われており、患者に対する支援内容は、精神症状への対処方法習得のための練習、日常生活行動や体力づくりを患者ペースで出来るような関わり、生活習慣の改善、現在できていることの維持・充実、退院の意思を育む、病棟外への関心の拡大のため散歩を行う、心の準備を手伝うことであった（No.1,2,3,4,5,6）。家族に対する支援内容は、社会資源の提案や紹介をPSWと実施、家族への労い、症状の対応や患者の努力を伝達、患者のいい変化を家族と一緒に確認、疾患の知識を確認し説明であった（No.2,3,5）。

これらの退院支援の内容から、退院可能性の判断のための査定内容を推測すると、患者の精神症状については、退院を目標にした視点での査定を日常生活援助から行う場合と、退院を目標にした視点なく印象的な出来事や気にかかる生活状況から退院の課題をつかむ場合ともに査定していた（No.2,3）。しかし、精神症状以外では、退院可能性の判断のための査定内容と退院支援の内容に混在がみられ、退院支援の内容の一部に査定内容が示されている報告があった（No.1,5,6）。

一方で、看護師は、退院のための目標を患者と共有し、一緒に課題に取り組もうとするが、共有が出来ない場合でも関係形成に重点をおいて支援を進めていた（No.1,4）。しかし、患者の精神状態や身体状態が悪化した場合には、支援を中断し、病状改善を最優先にケアを行っていた（No.3）。

IV. 考察

精神科病棟看護師の65歳未満の長期入院統合失調症患者の退院可能性の判断について、結果から、退院可能性の判断には、退院を目標にした視点での査定を日常生活援助から行う場合と、退院を目標にした視点なく印象的な出来事や気にかかる生活状況から退院の課題をつかむ場合がある。

以下、前述のアセスメント、問題の明確化、計画立案、実施、評価という看護過程のステップを用いて、考察を行う。看護学学术用語検討委員会によると、アセスメントは、情報の収集・分析・集約・解釈で構成され、患者および家族、ケア環境などの状況の査定をさしている。具体的には、系統的に身体や心理・社会的な情報を収集し、得られた情報の分析、それらの集約、解釈を行い、看護の視点から問題等を判別し、最適な看護を導き出す

表1 精神科病棟看護師の長期入院統合失調症患者の退院可能性の判断および退院に向けた支援に関する研究

No.	著者 テーマ 掲載誌名	研究目的	研究方法	退院可能性の判断および退院に向けた支援についての 結果の概要	発行年
			①研究対象 ②データ収集方法 ③分析方法		
1	牧茂義, 永井邦芳, 安藤祥子 3ヵ月以内に再入院した統合失調症患者に対する地域定着に向けた中堅・熟練病院看護師の支援プロセス 日本看護研究学会雑誌	統合失調症患者の再入院から地域定着に向けた病院看護師の支援のプロセスを明らかにする.	①看護部長から推薦を受けた看護師17名 精神科病棟勤務経験平均年数136年 17名中, 認定看護師1名 ②半構造化面接 ③質的帰納的分析	【判断】 看護師は, 印象的な出来事や気にかかる生活状況を通して患者の課題をつかみ, 患者の退院後の生活をイメージして目標を想定していた. 想定した目標を基に, 他のスタッフの意見を集約し, 看護の方向性を明確にしていた. しかし, 患者との関係形成に困難がある場合, 1人では患者の課題をつかむことができない状況があった. 【支援】 患者と目標を共有しようとするが, 共有が出来ない場合でも関係形成に重点をおき, 生活習慣の改善, 精神症状への対処, 服薬支援を進めていた. また, 患者への支援と並行して, 家族との関係性から退院先を想定し, 調整を行っていた.	2018
2	高橋未来, 葛谷玲子, 石川かおり, 他 精神科長期入院患者の退院支援における家族への看護の検討 複数施設で実施する事例検討会を通して 岐阜県立看護大学紀要	長期入院患者の家族を対象とした退院支援の看護実践事例の分析から退院支援上の課題とその関連要因および実施した看護を明らかにする.	①患者や家族に何らかの改善や効果的な反応が見られた6事例 ②検討会で用いた報告用資料, 会議録, 口頭での補足説明を記載した研究者の記録 ③帰納的分析	【判断】 退院の課題には患者に起因する要因と家族に起因する要因があった. 家族は退院に反対はしていないが退院後の生活に不安があるという課題では, ①患者の精神状態が不安定, ②長期入院による患者の自己管理能力の低下, ③患者以外の家族員での生活が確立し患者へのサポートが困難, ④過去のエピソードによる家族の患者に対する否定的感情, ⑤症状を抱えた患者の退院後の生活への家族の不安, ⑥家族の疾患に関する知識が不十分などが要因であった. 【支援】 症状への対処方法習得のための練習(要因①)や, 日常生活行動や体力づくりを患者ペースで出来るような関わり(要因②), 社会資源の提案や紹介をPSWと実施(要因③), 家族への労い(要因④), 症状の対応や患者の努力を伝達(要因⑤), 疾患の知識を確認し説明(要因⑥)を行っていた.	2016
3	石川かおり, 葛谷玲子, 高橋未来, 他 精神科長期入院患者の退院を支援する看護の検討 岐阜県立看護大学紀要	長期入院患者への退院支援を行った看護実践事例を素材として, 長期入院患者への退院を支援する看護について検討する.	①患者や家族に何らかの改善や効果的な反応が見られた8事例 ②研究会で用いた報告用資料, 会議録, 口頭での補足説明を記載した研究者の記録 ③帰納的分析	【判断および支援】 退院支援のための看護として, 長期の入院生活であることに配慮し, 患者に対して, 入院治療に関する思いを聴く, 目標設定を一緒に行い患者の取り組みを後押しする, 病棟外への関心の拡大のため散歩をすすめる, 私物の自己管理ができるよう能力に合わせて枠組みを設定する等が行っていた. また, 退院に関して意見の齟齬が生じている家族には, 患者のいい変化を家族と一緒に確認する等を行っていた. 退院支援をすすめるプロセスにおいて, 患者の精神状態や身体状態が一時的に悪化した場合は, 退院に関する具体的な支援を中断し, 病状改善を最優先にケアを行っていた.	2014
4	石川かおり, 葛谷玲子 精神科ニューロングステイ患者を対象とした退院支援における看護師の困難 岐阜県立看護大学紀要	精神科入院期間1~5年のニューロングステイ患者を対象とした退院支援において看護師が体験している困難について構造的に明らかにする.	①長期入院患者に看護実践している看護師6名 精神科勤務経験平均年数9.42年 6名中, 師長1名, 看護系大学院博士前期課程在学中1名 ②半構造化面接法 ③修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ	【判断】 看護師は, 退院してもらいたいという思いを持ち, 病状やセルフケア能力から退院の可能性を判断していた. これらが退院支援の始まりであった. 【支援】 看護師は, 患者の意思を確認・尊重する姿勢で退院に向けてできることを探索する等, 患者と共に取り組む退院支援を試みていた. また, 退院の目処が立ってなくても現在できていることの維持・充実など退院をイメージしてできる支援を始めていた.	2013
5	香川里美, 名越民江, 栗納由記子, 他 長期入院統合失調症患者の退院支援に関する熟練看護師の看護実践のプロセス 日本看護学会誌	熟練看護師が長期入院統合失調症患者に対し, 退院を意識して患者に関わり始めた時期から退院支援が終了するまでの, 看護実践のプロセスを明らかにする.	①施設管理者から推薦を受けた看護師13名 精神科勤務経験平均年数17.6年 ②半構構的面接 ③グラウンデッド・セオリー・アプローチ	【判断】 看護師は, 日常生活援助において退院を目標にした視点で患者を捉え直し, セルフケアレベル, 対人交流のスムーズさ, 精神症状の自己コントロール力, 知的レベルの見定めによって退院可能性を見出すことで退院支援を決意していた. また, 退院の課題の要因として①患者の退院へのあきらめ, ②退院後の再発に強い不安や迷惑を懸念する家族, ③予期していなかった退院への不安があると判断していた. 【支援】 退院の意思を育む(要因①), 遠ざかっていた患者家族関係の修復への仲立ちや他職種と協働した患者と家族への協力体制と利用できる社会資源の情報提供(要因②), 安心を提供するプライマリナーズの役割遂行(要因③)を行っていた.	2013
6	田嶋長子, 島田あずみ, 佐伯恵子 精神科長期入院患者の退院を支援する看護実践の構造 日本精神保健看護学会誌	精神科病院及び病棟に入院している患者に対する退院支援として看護師が行っている関りの構造を明らかにする.	①精神科勤務経験のある看護者25名 精神科勤務経験平均年数16.4年 ②半構構的面接 ③KJ法	【判断および支援】 退院支援における患者に対する関わりとして, 病状, 能力, 本人の希望から退院の可能性を査定していた. また, 自尊心を高める, セルフケア能力を高める, 心の準備を手伝う, 家族との関係を改善する, 退院先を検討する, 生活用品の準備等の具体的な準備を手伝う, 自立を支える等を行っていた.	2009

根拠を明示するものである。また、アセスメントの次に行われる問題の明確化は、アセスメントの中でも、看護職者の実践によって扱うことが可能な健康上の問題を明確化することである（日本看護科学学会，2019）。

しかし、退院可能性の判断では、退院を目標にした視点なく印象的な出来事や気にかかる生活状況から退院の課題をつかむ場合があり、系統的な情報収集が行われていないことが分かる。また、系統的な情報収集が十分でないため、退院を目標にした視点なく印象的な出来事や気にかかる生活状況から退院の課題をつかむ場合では、査定項目等、一切示されていない。一方で、退院を目標にした視点での査定を日常生活援助から行う場合でも、患者および家族について査定しているが、示されているのは査定項目のみで、具体的な査定内容は不明である。退院を目標にした視点の有無にかかわらず、査定内容は具体的でないといえる。

次に、退院支援の内容から、退院可能性の判断のための査定内容を推測すると、精神症状以外では、退院可能性の判断のための査定内容と退院支援の内容に混在がみられていた。

そのため、退院支援として日常生活援助等の支援を行っていることを看護師が認識していないのではないかと推察される。

以上より、精神科病棟看護師の65歳未満の長期入院統合失調症患者の退院可能性の判断から、系統的な情報収集が十分行われていないこと、退院を目標にした視点の有無にかかわらず査定内容が十分示されていないこと、日常生活援助等の支援が退院に繋がることを看護師が意識していないことが課題である。これらの課題解決のために、まずは看護過程のはじめのステップに相当する査定について、明らかにする必要があると考える。退院支援において介入方法を自ら発見できない看護師に対し、精神看護専門看護師が、不足した視点や知識を補うことで患者理解が深まり、ケアが明確になることを報告している（岩本，2017）。査定内容が明らかになれば、系統的な情報収集から退院可能性を判断し、日々の支援が退院に繋がると意識することに貢献できると考える。

V. 結論

1) 精神科病棟看護師の65歳未満の長期入院統合失調症患者の退院可能性の判断

退院可能性の判断には、退院を目標にした視点での査定を日常生活援助から行う場合と、退院を目標にした視

点なく印象的な出来事や気にかかる生活状況から退院の課題をつかむ場合がある。

2) 結果から考えられる課題

精神科病棟看護師の65歳未満の長期入院統合失調症患者の退院可能性の判断から、系統的な情報収集が十分行われていないこと、退院を目標にした視点の有無にかかわらず査定内容は十分示されていないこと、退院支援として日常生活援助等の支援を行っていることを看護師が認識していないことが課題である。

引用文献

- 藤野成美，脇崎裕子，岡村仁（2007）. 精神科における長期入院患者の苦悩. 日本看護研究学会雑誌, 30 (2), 87-95.
- 福原百合，藤野成美，脇崎裕子（2013）. 精神科訪問看護師が抱く精神科長期入院患者の退院促進および地域生活継続のための看護実践上の課題. 国際医療福祉大学学会誌, 18 (2), 36-49.
- 古田加代子，奥水めぐみ，流石ゆり子（2018）. 転居高齢者の日常生活状況からみた要介護リスクの検討. 愛知県立大学看護学部紀要, 24, 91-100.
- 岩本祐一（2017）. 長期入院患者の退院支援における精神科看護師の支援. 精神看護専門看護師の立場から. 日本精神保健看護学会誌, 26 (2), 21-30.
- 厚生労働省（2019年10月14日検索）. 患者調査.
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/kanja/17/dl/kanja.pdf>
- 厚生労働省（2019年11月11日検索）. 長期入院精神障害者の地域移行に向けた具体的方策に係る検討会資料.
<https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12201000-Shakaiengokuyokushougaihoukushibu-Kikakuka/0000051138.pdf>
- 厚生労働省（2020年7月21日検索）. 第2回精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に係る検討会資料.
<https://www.mhlw.go.jp/content/12200000/000632076.pdf>
- 日本看護科学学会（2020年11月29日）. 第13・14期看護学学術用語検討委員会報告書.
https://www.jans.or.jp/uploads/files/committee/yougo_houkokusho2019.pdf
- 高橋篤信（2016）. 長期入院している成人前慢性統合失調症患者が抱く退院への思い. 日本精神保健看護学会誌, 25 (2), 51-58.
- 吉村公一（2013）. 退院の意向をもつ長期入院統合失調症患者に対する精神科看護師の「退院調整の障壁」精神科看護師の態

度からの一考察. 日本精神保健看護学会誌, 22 (1), 12-20.

検討対象文献

石川かおり, 葛谷玲子, 高橋未来, 他 (2014). 精神科長期入院患者の退院を支援する看護の検討. 岐阜県立看護大学紀要, 14 (1), 131-138.

石川かおり, 葛谷玲子 (2013). 精神科ニューロングステイ患者を対象とした退院支援における看護師の困難. 岐阜県立看護大学紀要, 13 (1), 55-66.

香川里美, 名越民江, 粟納由記子, 他 (2013). 長期入院統合失調症患者の退院支援に関する熟練看護師の看護実践のプロセス. 日本看護科学会誌, 33 (1), 61-70.

牧茂義, 永井邦芳, 安藤詳子 (2018). 3ヵ月以内に再入院した統合失調症患者に対する地域定着に向けた中堅・熟練病院看護師の支援プロセス. 日本看護研究学会雑誌, 41 (4), 713-722.

田嶋長子, 島田あずみ, 佐伯恵子 (2009). 精神科長期入院患者の退院を支援する看護実践の構造. 日本精神保健看護学会誌, 18 (1), 50-60.

高橋未来, 葛谷玲子, 石川かおり, 他 (2016). 精神科長期入院患者の退院支援における家族への看護の検討 複数施設で実施する事例検討会を通して. 岐阜県立看護大学紀要, 16 (1), 113-120.